

開倫塾

塾長 林明夫

1. 何年か前にフィンランドのヘルシンキ大学での国際会議に参加。ノキアはじめフィンランドの大手企業 10 社の社員の国外勤務率が 50%を越し 60%近くまで上昇しているのには少し驚きました。フィンランドでは、ノキアはじめ大手企業は国外勤務はあたり前となっているようです。
2. ここ数年、毎年、韓国のサムソン本社を訪問し、サムソンの経営について調査と研究をしています。サムソン本社での採用は世界中からの採用、つまり、世界採用が原則のようです。サムソン本社の公用語はもちろん英語。サムソン本社で採用された社員は、地元の韓国人も含め世界中で勤務するのが原則のようです。
3. インドにある世界有数のコンピュータ・ソフト会社のインフォシスは、本社のバンガロールから 90 マイル離れたマイソールという街に、2005 年に、インフォシス・グローバル研修センターを設立。インド国内だけでなく、米国、欧州、中国をはじめとするインフォシスが事業を展開する全地域の大学を卒業した新入社員、13000 名を 14 週間研修後、全世界の勤務地で仕事をスタートさせています。もちろん、社内の共通語は英語です。
4. このように、ビジネスの世界では、自分の出身国以外で働き、また、英語を共通語として仕事をするのは普通です。
5. これからの国際化された世界で働く人々には、「多様な集団で交流する能力」が求められます。その能力は、多様な集団で「他人といい関係をつくる能力」、「協力し、チームで働く能力」、「課題を処理し、解決する能力」を内容とします。

育った環境、宗教や価値観、言語が自分と異なる人々に対して思いやり、寛容さをもつことも大切です。
6. パリで開かれた OECD の会議に私が参加した時のことです。何人かの人々がフランス語で話していたグループに私も参加したところ、あいさつ程度の簡単なフランス語しか私が話せな

いとわかった瞬間、そのグループ全体がパッと英語に切り替わりました。この思いやりには感激したものです。

7. これからの世界では、共通語である英語によるコミュニケーション能力が求められますので、英語はしっかり身につけましょう。同時に、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、韓国語、アラビア語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、ヒンズー語など英語以外の言語でもコミュニケーションができるようしっかり、正確に身につけましょうね。

8. (1)新聞の海外欄を、地図帳をそばに置いて地名を確かめながら、毎日、新聞を読む習慣を身につけると外国が身近に感じられますよ。外国から来た方や、外国に行ったことのある人からその国の様子を聞くこともとてもよい勉強になります。

(2)どこの国にも素晴らしい文化があります。図書館や美術館、博物館に積極的に出掛けて、世界の文化を知ることをお勧めします。

(3)最後に一言。これから、中国やインドをはじめ世界の新興国から大量の高校卒業生や大学卒業生が出てきて、自分自身の生活の向上や企業や国を発展させようとするすごい勢いで働き始めます。日本企業の競争相手は国内の企業だけではないのと同じように、皆様の競争相手は日本人だけではなく世界中の人々となります。これから始まるのは、中国やインドなどから出る大量の大学卒業生をはじめとする世界的な優秀な人材の獲得競争です。日本がこれにどう対処するかが日本の運命を決めます。

- 2011年1月6日林明夫記 -